

パブリックコメントでいただいたご意見と対応方針

番号	原文 該当 ページ	ご意見内容	理由	対応方針
1	4	「エネルギー自立型の処理場を目指し」とありますが、外部からの受け入れを含めたバイオマスの積極利用や処理場用地を活用した風力、太陽光などの再生可能エネルギーを導入して、外部からのエネルギーに一切頼らない「エネルギー創出型」の処理場実現を目指すなどの一歩進んだ記述があってもよいと思います。		ご意見にありますように、地域バイオマスを受け入れることによるエネルギー回収の増大と下水処理場の消費エネルギー50%削減によりエネルギー自立化を図っていきたいと考えています。また、創エネルギーにつきましても取り組んでまいります。(文言の修正は行いません)
2	7	ストックマネジメントに関する調査研究等に取り組んでいただくとともに、複数ケースを想定し、アセットマネジメントの構築案(悪い例でもよい)を示していただきたい。	色々な自治体の体制があるので、自治体担当者にとって参考になる。	“持続可能な下水道”としていくには、下水道施設に対し、必要な費用や人材を投入して良好な下水道サービスを継続的に提供するための事業運営、すなわちアセットマネジメントが欠かせません。しかし、これらに対する認識や取り組みには人口規模や技術者の不足など自治体が抱える様々な問題等もあり、自治体間で大きな差があると考えられます。機構ではこれまでも、安全で安心な暮らしの実現や持続性の確保に向けて共同研究等を実施してきました。引き続き、ストックマネジメントをより効率的かつ効果的に実施するための手法等の調査・研究等、並び、アセットマネジメント導入を促進するための問題点・課題の解決に向けた研究等を行っていくとともに、その情報提供にも努めていきます。(文言の修正は行いません)
3	9,10	消費エネルギーの50%を削減するには、「ii.主な研究項目」に挙げられている項目だけでなく、新たな生物処理方式の開発なども必要だと思います。	反応タンク周りの消費電力が占める割合が多い現状を考えると、設備の一層の省エネ化だけでなく、生物処理方式の開発も必要と考える。	本体機器の省エネ化に加えて、付帯設備などの低動力化を進めることや運転管理手法の改善により、消費エネルギーの50%削減が可能と考えており、当面、活性汚泥法を採用する下水処理場の省エネ化に取り組んでまいります。いただいたご意見につきましては、今後の取り組みの参考とさせていただきます。(文言の修正は行いません)